

韓国のミニシアターで異例の2万人越えスマッシュヒット!

ホン・サンス作品の元プロデューサーが描く、半自伝的アラフォー女性の奮闘コメディが遂に日本上陸!!

『チャンシルさんには福が多いね』

『はちどり』『82年生まれ、キム・ジヨン』に続く韓国の女性監督キム・チョヒ長編デビュー作!

話題沸騰『愛の不時着』の耳野郎キム・ヨンミン、監督、チャンシル役 カン・マルグムから

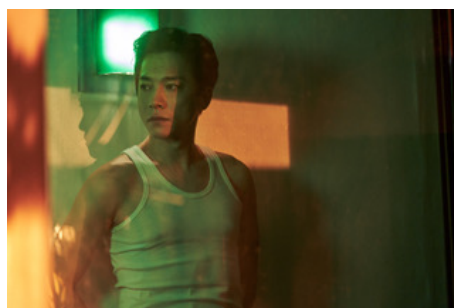
日本のファンに向けたコメント到着!!!

2021年1月8日公開決定!

平素よりお世話になっております。

新風を巻き起こす女性監督たちの台頭が著しい韓国映画界で、その最前線グループに陣取るキム・チョヒ監督の待望の長編デビュー作『チャンシルさんには福が多いね』が2021年1月8日よりヒューマントラストシネマ渋谷・ヒューマントラストシネマ有楽町他にて劇場公開が決定いたしました。

是非、この機会に本情報をニュースとして取り上げて頂けますよう、宜しくお願い申し上げます。



長らくホン・サンス監督のプロデューサーとして活動してきたキム・チョヒが、自身の体験を投影して監督した本作は、プロデューサーとしてずっと下支えてきた映画監督が急死したことで失職し、気が付けば家も男も子供も、青春さえも棒に振ってきたアラフォー女子の主人公チャンシルに、ある日思わぬ恋の予感が訪れ…といった、オフビートなラブ・コメディ。

第24回釜山国際映画祭にて韓国映画監督組合賞・CGVアートハウス賞・KBS独立映画賞の3冠を達成し、また主演のカン・マルグムも韓国のゴロデングローブ賞と呼ばれる「百想芸術大賞」で映画部門女性新人演技賞を受賞と高評価を得た本作。また、日本でもNetflixで配信され話題となった韓国ドラマ『愛の不時着』で「耳野郎」と呼ばれる盗聴係を演じたキム・ヨンミンが、某香港大スターだと言いつける男の役で出演していることでも注目されている。

劇場公開に先行して今年上映された大阪アジア映画祭、あいち国際女性映画祭では、チケットが早々に完売するなど、日本国内でも敏感な韓国通や映画ファンから大きな話題を集めていた。

さらに日本での公開決定を受けて、キム・チョヒ監督、カン・マルグム、そしてキム・ヨンミンからコメントが到着した。監督は「私はとても日本の皆さんにお会いしたいと願っています。だって私が最も尊敬する小津安二郎監督の国なのですから。」と嬉しさを爆発させている。

<STORY>

ずっとプロデューサーとして支えてきた映画監督が打ち上げ宴会中に急死。これを機に失職して、何もかも失ってしまったチャンシルさん。映画だけに捧げてきた人生、気がつけば男も子供も家もなし、もちろん青春なんていまいずこ。そんな八方塞がり、アラフォー女子のチャンシルさんに、ある日突然、思わぬ恋の予感が…。

出演: カン・マルグム ユン・ヨジュン キム・ヨンミン ユン・スンア ペ・ユラム

監督・脚本: キム・チョヒ プロデューサー: ソ・ドンヒョン / キム・ソンウン

撮影: チ・サンビン 編集: ソン・ヨンジ 録音: パク・ジョンウ 音楽: チョン・ジュンヨブ 主題歌: イ・ヒームーン

【2019年|96分|韓国語|カラー|DCP・BD】 © KIM Cho-hee All RIGHTS RESERVED/ ReallyLikeFilms

配給: リアリーライクフィルムズ + キノ・キネマ 配給協力: アルミード 後援: 株式会社東京現像所

2021年1月8日(土)、福いっぱいの新春ロードショー!

ヒューマントラストシネマ渋谷・ヒューマントラストシネマ有楽町 他にて

キャスト・スタッフ プロフィール&コメント



脚本/監督キム・チョヒ

1975 年生まれ。フランスのパリ第一大学で映画理論を専攻し、ホン・サンス監督のプロデューサーとして『ハハハ』（2010）、『ソニはご機嫌ななめ』（2013）、『自由が丘で』（2014）などを担当した。

監督としては3本の短編映画『冬のピアニスト』（2011）、『うちのスニ』（2013）、『山菜娘』（2016）で大きな注目を浴びた新鋭だ。三人称観察者の視点によるナレーションが独特なラブストーリー『冬のピアニスト』から、失恋したスニにご飯を食べさせたい電気炊飯器の話『うちのスニ』、性の役割を変え、ひねりを効かせた愉快的作品『山菜娘』まで、キム監督は毎回凡庸でない個性で観客を魅了してきている。

<キム・チョヒ監督コメント>

来年1月に私の映画が公開されると伺いました。私はとても日本の皆さんにお会いしたいと願っています。だって私が最も尊敬する小津安二郎監督の国なのですから。当然ではありませんか！そして、私の映画を観て感じたことを皆さんに直接聞いてみたいです。その夢が実現することを願っています。



カン・マルグム（チャンシル役）

一般企業の会社員として働き、30歳で演劇界に入った彼女は、2007年『コメディア』で舞台デビュー、『負けず嫌い』（2012）、『貧しい人々』（2013）など、14年間、演劇界で実力を磨いた実力派俳優。短編『自由演技』（2018/キム・ドヨン監督）でワンオペ育児に疲れた俳優役を好演し、注目された。これをきっかけに〈忠武路（映画界の別称）のニューフェイス〉として耳目を集め、テレビ、スクリーンを行き来して活躍中である。

<カン・マルグム コメント>

日本では1月に『チャンシルさんには福が多いね』が公開されると伺いました。チャンシルたちと一緒に福いっぱい2021年がスタートすることを願っています。ありがとうございました。



キム・ヨンミン（香港スターの幽霊役）

1971年生まれ。高校時代から演劇活動をはじめ、映画デビューはチョン・ウソン、イ・ジヨンジェ主演の『太陽はない』（1999）。以後、キム・ギドク監督の『受取人不明』

（2001）、『春夏秋冬、そして春』（2003）などに出演、2010年大韓民国演劇大賞男子演技賞を受賞した演技派俳優として善と悪のキャラクターを行き来しながら、大胆で個性あふれる演技で顔を知られている。最近、『愛の不時着』（Netflix）や『夫婦の世界』（Knet）などでの高視聴率番組で強い印象を残す役を演じ、知名度を上げている。

<キム・ヨンミン コメント>

『チャンシルさんには福が多いね』は、個性的なキャラクターを通して、暖かい癒しを与えてくれる映画です。この映画を見て、チャンシルと同じように、日本の皆さんに新たな出会いがあることを願っています。

お問い合わせ:

弊社オフィシャルサイトのお問い合わせフォームからご連絡ください。